

主体性・自治性を高める工夫

～多様性を尊重し、主体的に学ぶ東山っ子の実践～

別府市立東山小学校（児童数38人 学級数4）

別府教育事務所

現状・課題

◇多様な子どもたちが在籍し、多様な視点での関わりが求められる
　外国にもルーツがある／校区外から通学／学校に行きづらさを抱えている

◇経験や校種による「多様性の尊重」の捉えの多様さが課題
　子ども同士の対話やつながりの醸成／誰一人取り残されない学校・学級づくり

「多様性を尊重し、自他のよさを認め合い、主体的に学ぶ東山っ子」の育成

【東山っ子会議】

- 日 時: 原則毎月第3月曜日1校時
- 場 所: 小学部ホール
- 出席者: 小学部全児童及び教職員
- 議 題:

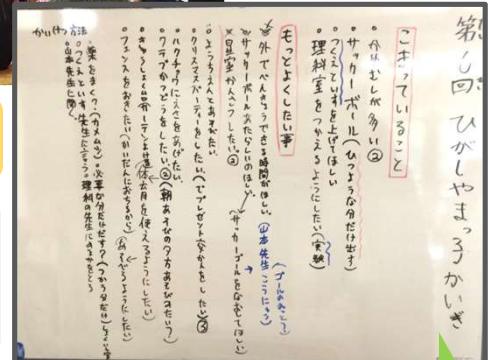
- ① 学校で困っていること
- ② もっとよい学校にしていくために
- ③ 行事について

＜第1回・第2回＞
司会・記録共に教員が担当

＜第3回以降＞
毎回6年生を中心に担当を替える



きまりが必要な場合は児童会から発信



経験を基にした解決方法を考えることができ、経験がない場合でも、予測に基づいて実現可能な解決方法を考えられようになってきている。

【実現したこと】

- 遠足実施
- 静か週間
- 学級文庫整理週間
- 給食おかわりルール変更
- 全校遊び
- 全校給食
- 全校お楽しみ会 等

【成長を実感していること】

＜児童同士の遠足後の振り返り＞

- 東山っ子会議があつてよかった
- みんなが遠足の目的を大切してくれた
- みんなと仲良くなれたり、地域をきれいにできた
- 6年生、校長先生を説得してくれてありがとうございます
- 次は5年生が計画してくれると信じています

＜児童アンケート結果＞

- いろいろなことを自分ごととして考えるようになった (97.1%)
- 困っていることを自分たちで解決できるようになった (88.6%)

- 自分たちの困りを、自分で考え解決できるようになってきている。
- 全校に関わる細かな点に目を向け、よりよい生活を創ろうとする姿が見られている。
- 主体的に考え、協働的に解決を図ろうとする姿勢が見られた。（高学年）

周囲の声より

教職員：○子どもたち自身で吟味し実現に向かおうとする過程を、できるだけ口を出さずに見守る難しさと大きさを痛感する。

保護者：○社会で必要な問題解決や交渉をする力が育つ。子どもの意見が実現する画期的な経験に感謝。△中学校にも広げてほしい。

地 域：○自治的な力が育つ素晴らしい活動である。

成果

導入を検討する学校へ

- 小規模校の良さを生かし、同規模校なら本事例を導入できるのではないか。
- より規模の大きな学校は、既存の委員会活動等を活用することで、子ども主体の創造的な活動を推進できると考えられる。